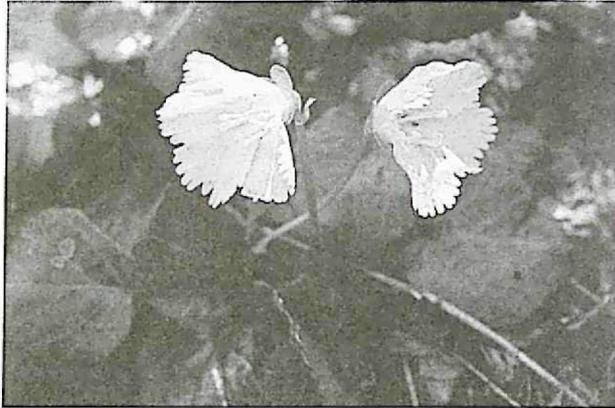


植物観察記4

「イワウチワとイワカガミ」

笹川 通博

7 イワウチワ (いわうめ科)



春になり、早く外へ出たいと気もそぞろになった。ようやく芽の柔らかくなったブナの木は、初春の陽を浴びて、根元だけ丸く雪を解かしている。その穴の底に、ユキツバキがまだ雪に押しつぶされたままである。陽当たりのよい尾根道は早くに雪が解け、淡い桃色のイワウチワの花で彩られている。その上を、黄色いギフチョウがせわしなく羽ばたいている。谷はまだ雪が深く残り、初老の夫婦が互いに相手を気遣いながら、雪の上の踏み跡を辿って登って行く。風もまだ冷たい。春に仲間達と一緒に山を登ると、必ず聞かれるのがタムシバとコブシの違い。それからイワウチワとイワカガミの違いである。山頂で楽しく焼き肉をしようと、大きな荷物を担いで登りながら、私は何遍も違いを説明するのである。山に生えていて低い木がタムシバ、コブシは大きな木になります。イワウチワは茎(本当は花柄)に大きな花が一つしか咲きませんが、イワカガミは一本の茎(花柄)にたくさんの小さな花が咲きます。タムシバの花の白は柔らかい不思議な白。トミオカさんの白より美しい。イワウチワの花の白は桃色の白。天国へ登る道に咲く花がこのような色。夢の中ではありふれた色。少し縁起が悪い。

新瀨の山に生えているイワウチワは、太平洋側のものよりも大きいので、オオイワウチワというのだそうだ。どれぐらいの違いがあるのか私は知らないで、ここではイワウチワとしておく。名前の通り、岩場に生え、うちわのような葉をした小さな植物である。私の持っている図鑑では草の仲間に入っているが、本当に草なのかしら。地下茎となって這っている茎は、細いが木のようなものである。学名は *Shortia uniflora*。前の属の名前はアメリカ人の Shortさんを記念したものだそうだ。次の種の名前の uni- はユニバース、ユニフォームと同じ、一つという意味。-flora

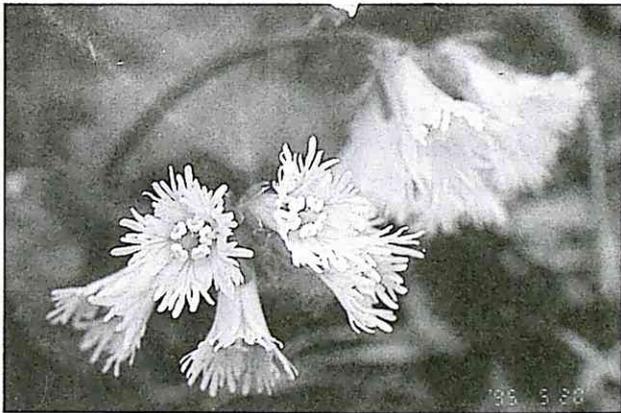
はもちろん花。すなわち一つの花である。一本の花柄の一つの花がつくという、イワウチワの顕著な特徴を表している。属としても、科としても、種数の少ない小さな仲間では、イワウチワやイワカガミが日本の山にたくさんあることは、世界的に見ると案外と珍しいのかもしれない。

花の直径は、咲いている上から見ると約4cm。花弁そのものの長さは基から先まで約3cm。先の方は桃色で奥の方は白になる。五つに大きく裂けているが、長さの半分ぐらいのところまで隣の花弁としっかりくっついている。すなわち、合弁花である。花弁の端は更に不規則に裂けている。雄しべは花弁の裂片の間にあり、従って計5本である。花粉の入っている袋、すなわち葯は薄い黄色で2室あり、内側にしっかり曲がってついている。花弁の奥に、複雑なしわのある白い盤のようなものがあり、花を引き立てている。その中央に、1本の雄しべが突き出ているが、花の外までは伸び出さない。花弁の外側には長さ約1.5cmのガクがあり、その縁は赤い。こちらは花弁と違って五つが離れてついている。その外側には、ガクとはやや質の違う葉のようなもの、すなわち苞葉がついている。花のついている枝、すなわち花柄にも、花から5cm程離れたところに、やや大きめの苞葉がついている。いずれも白っぽいが縁は赤い。花弁と同じような色の配置である。

花弁を引っ張ると、雄しべと白い盤のようなものがくっついたまま、すると抜ける。雌しべとガクは花柄に残ったままである。花弁は下半分でくっついているので、鐘状になる。それを縦に裂いて、花弁を開く。雄しべが長さの半分のところで花弁の裂片同士をくっつけている。白い盤のように見えたものは、実は盤ではなく、雄しべと雌しべの間、すなわち花弁の裂片と同じ位置に独立してついている綿状のものであった。それが上(花弁の開いている方)からは盤のように見えるのだ。その綿状のもの奥が、少し光って湿っている。私の大きな舌でちょっとなめてみると、甘い。ギフチョウのやつめ、花の奥のこの蜜を目当てに飛び回っているのだ。雌しべの花柱は長さ約2cm、細く白色で、先がわずかに膨らみ茶色くなっている。子房は緑で長さ約3mm。ガクとしっかりくっつき、取ろうとしたら壊れた。中には粉状のものに覆われた三つの玉のようなものが出てきた。その玉の大きさは約1.5mm。図鑑でカンニングすると、その玉は子房の中の部屋で、粉のようなものが胚珠、すなわち卵細胞の入った種子の元である。

花のついている柄は、茎ではなく、花柄という。これは赤くて溝が2本走っている。人に説明する時は、細かいことを言うと面倒なので、茎と言ってしまふ。本当の茎は茶色く根のようで、地面を半ば潜りながら長く這っている。茎の一番先に花柄や葉を幾つかつけ、その3cm位下に、また別にまとまって数枚の葉をつける。ここには花はつかない。おそらく、下の方の葉は去年の春に出た葉で、1年の内にそこから茎の先端まで、3cmほど成長したのだろう。葉はほぼ丸く、長さ6cm、幅6.5cm位でつやがある。基部はハート型、すなわち心脚になり、7.5cmもある長い葉柄に続いている。縁には尖った低いギザギザ、すなわち鋸歯がある。今年出たばかりの葉は赤ちゃんのようで、まだとても小さく、赤く、裏を外側にして二つ折りになっている。若葉を守るものは何もなく、裸である。イワウチワは雪に埋もれて冬を越し、年中緑の葉をつける。一見不合理に思えるが、常緑だからこそ、春一番、雪が解けてブナが葉を茂らせる前に、花を咲かせることができる。これが落葉性で、春になって葉を開いてから花を咲かせていたのでは、ブナの葉が茂って森は暗くなり、イワウチワのような背の低い植物にとっては甚だ都合が悪い。

8 イワカガミ (いわうめ科)



イワカガミの花の咲く時期はイワウチワよりも遅いようである。イワウチワが春の陽を惜しむように咲き競っている時、イワカガミはまだ岩の陰でつぼみを傾けている。イワカガミの方がイワウチワよりも全体が一回り大きい。イワウチワと同様、日本海側のイワカガミは太平洋側のものより大きいので、オオイワカガミという。学名は *Schizocodon soldanelloides*。イワウチワとよく似ているが、科は同じでも属は別である。Schizo-は(裂けた)、-codonは鐘という意味で、イワカガミの花をそのままいい表して妙である。種の名前の *soldanelloides* は *soldanella* 属に似たという意味だそうだが、*soldanella* 属を私は知らない。日本語の名前だと、イワカガミ、イワウチワ、慣れないとごっちゃになってしまうが、学名の方が、それぞれの特徴をよくいい表している。

長さ11cmもある1本の花柄の先の方に、更に小さい柄を

介してたくさんの花がつく。数えたら15個あった。一本の小さい柄に普通は一つの花だが、希にその柄が枝分かれし、二つの花がつくものもある。花柄は赤く、2本のはっきりした溝が走っている。イワウチワでは花柄の中程に苞葉があったが、イワカガミにはそれがない。元々はたくさんの花柄があり、それに一つずつ花がついていたのが、融合して1本の花柄になったのではないかと、勝手な想像をする。一つの花の長さは約1.5cm、筒状で、先がやや開いている。イワウチワの花よりも赤が強い。先は五つに大きく裂けているが、筒の部分は完全につながっている。すなわち、合弁花である。裂片の先は更に不規則に裂けている。花弁の外にはガクがあり、五つに分かれているが、基部はくっついている。その更に外に、ガクとは質の違う2枚の苞葉がつく。いずれも、赤から緑色をしている。開いている方から花を見ると、濃い桃色の花弁の中で、薄黄色い葯が五つ、よく目立つ。雌しべは奥の方に見え、イワウチワにあった盤のようなものはない。こんな小さな花の奥の方からも、かすかによい香りが漂ってくる。

花弁を引っ張ると、イワウチワと同様、雌しべとガクを残して花弁と雄しべがするりと抜ける。雌しべは長さ約0.5mmしかない緑色の子房に、長さ約7mmの赤い花柱が立っている。花柱の先がわずかに太くなっている。子房の基部はガクとくっついている。花弁を開くと、大きな裂片の間に、計5本の雄しべがある。雄しべは花弁とほとんどくっつき、葯のついている先の方、ほんの1mm位の部分しか花弁と離れていない。葯は薄い黄色で2室あり、内側に向かって平につく。そのため、花の開いた方から見ると、葯がよく目立つのである。雄しべの柄、すなわち花糸は赤い。その雄しべと雄しべの間、花弁の裂片と同じ位置の基部の方に、長さ約1.5mmしかない棒状のものが花弁についている。先は白く、細かい毛が生えている。これは退化した雄しべに違いない。つまり、イワカガミは本当は10本の雄しべが放射状に並んでいたのだが、花弁の裂片と同じ位置にある5本が、このように退化してしまったのだ。これで、あのイワウチワの花の奥にある盤状のものの正体が分かった。それは、退化した雄しべが変形したものなのだ。イワカガミでは退化した雄しべはそのままの姿だが、イワウチワでは綿状になり、花の正面から見ると白く盤状に見え、美しさを増す役割を担った。イワカガミは、一つの花柄にたくさんの花がつくという点では、進化が進んでいるといえるが、退化した雄しべがそのままの姿という点では、それを変形させたイワウチワよりも遅れているといえる。進化というのは、いろいろな形質で一斉に進むものではないらしい。

おしまいに、イワウチワとイワカガミを葉だけで見分ける方法がある。イワウチワの葉は、葉脈が浮き出て、先端はややへこんでいる。イワカガミの葉は、葉脈がくぼんで、先端はやや尖っている。これで、花がなくてもばっちり区別できる。